

用語解説

あ

【アセットマネジメント】

水道施設を計画的に更新し、健全な状態で次世代に引き継いでいくために、中長期的な視点に立ち、効率的かつ効果的に水道施設を管理運営すること。

【一日最大給水量】

年間の一給水量のうち最大のものをいう

【一日平均給水量】

年間総給水量を年日数で除したものをいう。

か

【供給単価】

有収水量1 m³当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。数値が高いほど給水を行うために多くの費用がかかっていることを示しています。

供給単価(円/m³) = 年間給水収益(円) ÷ 年間有収水量(m³)

【給水原価】

有収水量1 m³あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標。数値が高いほど給水を行うために多くの費用がかかっていることを示している。

給水原価(円/m³) = { 経常費用 - (長期前受金戻入益見合いの減価償却費)
- (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価) } ÷ 年間有収水量(m³)

【給水収益】

水道事業会計における営業収益の一つで、水道料金の収益のこと。

【健全資産】

施設に経過年数が法定耐用年数の1.5倍以内の資産。

【経年化資産】

施設に経過年数が法定耐用年数の1.5倍を超え2.0倍以下の資産。

【管路経年化率】

法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標です。数値が高い場合は、法定耐用年数を超えた管路を多く保有しており、管路更新の必要性を推測することができます。

法定耐用年数を経過した管路延長 ÷ 管路総延長 × 100

【管路更新率】

当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標です。管路の更新ペースや状況を示しており、投資計画等を策定する際の指標となります。

当該年度に更新した管路延長÷管路総延長×100

【企業債残高対給水収益比率】

給水収益に対する企業債残高の割合を示す指標です。投資規模や料金水準が適切であるかを判断する指標であり、数値が高い場合、経営改善を図っていく必要があることを示しています。

企業債現在高÷給水収益×100

【給水原価】

水道水1m³当たりの製造単価

【給水協定】

給水に関し、1日最大給水量と1日平均給水量について取り決めをした協定をいう。

【経常収支比率】

水道料金等の収入で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。数値が100%以上であると単年度収支が黒字であることを示し、数値が100%未満であると単年度収支が赤字であることを示します。

経常収支比率(%)＝経常収益(円)÷経常支出(円)×100

【経営比較分析表】

経営および施設の状態を表す経営指標を活用し、経年比較や他公営企業との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行うことにより、経営の現状および課題を的確かつ簡明に把握することを目的に作成するもの。

【経年化資産】

施設の経過年数が法定耐用年数の1.5倍を超え2.0倍以内の資産

【健全化資産】

施設の経過年数が法定耐用年数の1.5倍以内の資産

【コーホート要因法】

年齢別人口の加齢にともなって生ずる年々の変化をその要因(死亡、出生、および人口移動)ごとに計算して将来の人口を求める方法である。すでに生存する人口については、加

齡とともに生ずる死亡と国際人口移動を差し引いて将来の人口を求めるもの。

さ

【最大稼働率】

施設の効率を判断する指標の一つ。数値が高いほど施設が効率的に利用されていることを示す。

$$\text{最大稼働率(\%)} = \text{一日最大配水量(m}^3\text{/日)} \div \text{配水能力(m}^3\text{/日)} \times 100$$

【受水費】

他の事業体から受けている水について支払う費用。

【施設利用率】

1日配水能力に対する1日平均配水量の割合を示す指標です。施設の利用状況や適正規模を判断する指標であり、高い数値であるほど施設能力を活用しているといえます。

$$\text{施設利用率(\%)} = \text{一日平均配水量(m}^3\text{/日)} \div \text{一日配水能力(m}^3\text{/日)} \times 100$$

【収益的支出】

企業の経営活動に必要な費用。維持管理費や減価償却費、借入金の支払利息などの合計。収益的支出から特別損失を除いたものが経常支出となる。

【資本的支出】

施設の整備や拡充などの建設改良に要する費用と、企業債の元金償還等の合計。

【スペックダウン】

管路の口径縮小や配水池の容量縮小をすること

【損益勘定留保資金】

資本的収支の補てん財源の一つで、損益勘定留保資金とは、収益的収支における現金の支出を必要としない費用、具体的には減価償却費、繰延勘定償却、資産減耗費(現金支出を伴う除却費を除いたもの)などの計上により企業内部に留保される資金をいう。

【総括原価】

水道サービスを提供するために必要な原価のこと。水道事業の運営に係る費用に、資産維持費として施設の維持更新等に係る一部の金額を加算したもの。

た

【ダウンサイジング】

施設等の規模を小さくすること。

【長期前受金戻入】

資産取得時の財源として補助金等を受けた場合、資産の減価償却は、補助金等に対する部分も含めた「フル償却」の減価償却に併せて毎年「長期前受金戻入」として収益化を行うもの。

な

【内部留保資金】

実際に現金の支出がない費用（減価償却費）の計上によって生じた資金（＝損益勘定留保資金）や、過去の利益を積み立てた資金など、水道事業会計の内部に留保している資金。建設改良投資や借入金の返済のために使用される。

は

【配水能力】

各家庭や企業等へ水を供給できる能力。通常、一日どれだけの水量を供給できるかで示される。

【配水量】

配水池（浄水された水を一時的に蓄えておく施設）などから各家庭や企業へ送り出された水の量。

【負荷率】

一日平均給水量の一日最大給水量に対する割合（％）を示します。

【ポリスリーブ】

埋設管の防食対策に管を覆う、ポリエチレン製の袋。

ま

【村山広域水道】

村山地域の水不足を解消するために、昭和 59 年につくられた組織。寒河江ダムを水源として西川浄水場で水道水をつくり、山形市、寒河江市、上山市、村山市、天童市、東根市、山辺町、中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町の 6 市 6 町へ送水している。

【水需要】

住民や企業が生活や企業活動を行う上で必要とする水の量。あるいは、水道水として供給が求められている水の量。

や

【有収水量】

水道施設から給水した水量のうち、料金収入の対象となった水量。

【有収率】

配水した水が収益につながっているかを判断する指標です。有収率が高いほど水道料金徴収の対象となる水量が多く、効率的であるといえます。

年間総有収水量 ÷ 年間総配水量 × 100

【有形固定資産原価償却率】

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標です。数値が 100% に近いほど、保有資産の法定耐用年数が近づいていることを示している。

有形固定資産減価償却累計額 ÷ 有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価 × 100

【有収水量密度】

給水区域面積 1ha 当たりの年間有収水量。

年間有収水量 ÷ 給水面積

ら

【料金回収率】

給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標です。数値が低いほど給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを示しており、適切な料金収入の確保が必要なことを示しています。

料金回収率 (%) = 供給単価 (円/m³) ÷ 給水原価 (円/m³) × 100

【流動比率】

流動比率は、流動負債に対する流動資産の割合であり、短期債務に対する支払能力を表している。流動比率は 100% 以上であることが必要であり、100% を下回っていれば不良債務が発生していることとなります。

流動資産 ÷ 流動負債 × 100

【流動資産】

流動資産とは、現金及び会計年度末の翌日から起算して 1 年以内に現金として回収される資産です。流動資産は、現金預金、未収金に分類されます。

【流動負債】

流動負債とは、その支払期限が会計年度末の翌日から起算して1年以内に到来する負債です。流動負債は翌年度償還予定地方債、短期借入金(翌年度繰上充用金)、未払金、翌年度支払予定退職手当、賞与引当金に分類されます。

【累積欠損比率】

営業収益に対する累積欠損金(営業活動により生じた損失で、繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年にわたって累積した損失)状況を表す指標です。数値が0%であると累積欠損金が生じていないことを示します。

累積欠損金 ÷ (営業収益 - 受託工事収益) × 100

【老朽化資産】

施設に経過年数が法定耐用年数の2.0倍を超える資産。